



合唱という“学び”を通して考えたこと

一次発表会、音楽発表会、市内合唱コンクール、そして、県音楽研究大会での発表。子ども達は、5年生の終わりから始めた合唱を通しての学びを、ここに一つ終わりました。本当によく頑張りました。練習中に、表情を変えることができず、鏡の前で表情をつくる練習もしました。合唱コンクールでは、賞に入ることはできませんでした。「努力はなんだったんだ！」と叫んだ子どももいたそうです。

子ども達の作文からは、練習が面倒臭いと思うこともあったと心の内を明かしてくれたものもありました。グランプリを目指すと言っても、甘く見ていたという振り返りをした子どももいました。でも、作文を読んで心から嬉しかったことがあります。子どもの書いた文面で紹介します。

- 今までにないきれいな歌声に全員で拍手し合った時、すごくうれしかったことは忘れられない。
- 私は音楽が好きになりました。
- 今まであまり音楽を聞いてすごいなとか、きれいだなとか思ったことがなかったけど、「花」の最後の部分がすごく響いたので、きれいだなと思うことができました。
- 音楽コンクールまでに学んだ中で一番大きかったことは、「みんなで心を一つに」です。
- ぼくたちはうまくなれた。
- 歌についての知識がより付いてきた。
- 精一杯歌ったからそれでいい。
- アルトは決して影の存在ではない。アルトがいないと、ソプラノが輝けない。
- 音楽の厳しさ、難しさを学んだ。
- 前の六年生もこんなに大変な練習をしてきたからあんなにきれいな歌声だったんだ。
- 田中先生が一生懸命教えてくださったおかげで、だんだん音楽が好きになりました。
- 支えてくれた人や、一緒にやった仲間感謝している。
- 練習を積み重ねることで、たくさんの拍手や褒め言葉をもらうことができました。

子どもの作文を読んで、平成 29 年度向東小学校卒業生となる予定の子ども達は、今ここでしかできない学びをしっかりとやりきれたんだと感じました。この経験は宝です。

最後に、田中先生と先日お話をする中で心に残る言葉をいただいたので紹介します。

「結果は、今すぐにでないこともある。10年後でいいのよ。」

今、ここまで頑張ってきたことに偽りはありません。だからこそ、残りの日々に生かしていきたいと考えます。



〈第 55 回 広島県音楽研究大会〉